

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	GHすこやかが目指すこととして、5つの大きな枠組みがあり、穏やかな時間 なじみの環境 居心地のいい場所 年長者を敬う心 地域との連携と謳っています。また、職員間で確認しあい、関係性強化を図っている。		
2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員採用時には理念を伝え、理解に努めてもらうようにしている。また、理念をいつも意識できるように、職員が一番目に付くところに から を入れ替えて掲示し、確認し合うようにしている。名刺大のカードを作成し、持ち運びが出来るようにしている。		
3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域での行事にはどんどん参加するようにしていることや、運営推進会議で、折に触れて事業所の実践を伝えるようにしている。地域の方の見学に快く応じている。すこやか祭りで、地域の方やご家族とのコミュニケーションを図り、理解してもらえるように努力している。		
2. 地域との支えあい			
4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や買い物等の時、近隣の人たちと挨拶を交わしている。近隣の商店街を大切に、利用することで地域の一員として受け入れてもらっている。(食べきれないので…と、差し入れをいただくこともある。)近隣のグループホームとも交流している。地域のボランティア(読み聞かせ「おはなしの森」)が毎月来てくださり、時折地域の子供さんたちが一緒に来てくださる。すこやか秋祭りには、たくさんの近隣の人たちや、近隣のグループホームの入居者様が遊びに来て下さっている。		
5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会のごみ拾いや、盆踊り、小学校の音楽発表や運動会などに参加させてもらっている。地域の資源回収に出す。近隣の小学校や中学校の体験学習などの児童の受け入れを行い、交流を行っている。		
6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	人材育成として、実習生の受け入れを行っている。運営推進会議においても、地域に貢献できることがあれば、いつでも協力したいと伝えている。地域の方の見学や相談に応じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	成年後見人やキーパーソンを通して思いを聞いてもらっている。利用者様に直接思いや不安、不満を聞く機会を作っている。言葉や態度から思いを察する努力を職員全体で行っていて、カンファレンスなどで生かす様にしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	開設時より職員やご家族にも利用者様を中心に一つの輪であることを伝え、訪問時には管理者だけでなくスタッフ全員が暮らしぶりやエピソードなどを伝え、ご家族からの話もスタッフが聞くようにして、意見交換が出来る。すこやか便りや、金銭出納帳は毎月月末に送付している。職員の異動については、すこやか便りに掲載している。心配事があるときなど、夜間でも電話で様子をお伝えしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情についての窓口(すこやか介護サービスや札幌市、道、国保連等)について説明を行っている。運営推進会議で話し合いを行っている。訪問時に話し合いの場を設け、意見等聞くようにしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスや勉強会などで意見を聞くようにしている。個別面談を行い、意見を聞くようにしている(運営者) 日ごろから、チームワークを大切に、コミュニケーションを図り、要望や意見を聞くようにしている。不満や苦情は内容により対応している。職員の意見はリーダーもしくはホーム長に集まり、その後管理者へ報告される。内容によっては、管理者から運営者へ提案され、運営者が直接職員と面談し、運営に反映される。多くはカンファレンスにて取り上げ、職員全体で議論し、反映される。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	職員それぞれの事情もあり、出来るだけ汲み取り、働きやすい職場となるよう努力している。希望についても対応するようにしている。送迎や行事等に応援してくれる人が確保されている。管理者は通常のシフトに入れていないので、柔軟な体制が取れる。職員の居住地が近い範囲におり、何かあるとすぐ駆けつけることが出来る。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	管理者の離職や異動は現在の所起きてはいない。職員の離職の際には離職の事情を説明し、ご家族には口頭及び、毎月のお便りに離職者からのメッセージを掲載する。離職後も、ホームに遊びに来てもらったり、交流が続けられるようにしている。離職が無いよう働きやすい環境となる様運営者、管理者とも努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けたとき傾聴し、何が 필요한のか、自分ができる事は何かを考え対応している。 地域包括支援センターにつなげたり、他の事業所(グループホームや小規模、デイなど)サービスを紹介している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族とご本人と十分な話し合いの時間をとってもらい、又ご家族、ご本人にも十分な見学をしてもらい、納得の上でサービスの利用をしてもらっている。 入所当初の時点では、なるべくご家族が来られる様依頼をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に生活している家族と言う視点でお互い支え合っているという関係を築いている。 アセスメントやセンター方式を活用し、人生の大先輩としての尊敬の気持ちを忘れず、出来ること出来ないことの見極めを行い、その人の思いや不安、喜びなど十分理解し、共に暮らし、共に喜怒哀楽を感じ、穏やかな生活を送れるような場面作りに努力している		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員は、ご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、感動や、思いを共有している。 ご家族と話す機会を多く設け、ご家族の気持ちを理解し、報告をきちんと行い、信頼関係を築くよう努力している。 ご家族と一緒に喜び、一緒に悲しめる関係を築いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事へのお誘いをしたり、来訪時には会話が弾み楽しい時間を過ごしていただけるよう配慮している。 最近のホームでの様子もきちんと伝えている。 「すこやか便り」		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	アセスメントの中で、ご家族からの情報だけでなく、色々な人から情報得て、なじみの関係やなじみの場所など情報を収集する。 会いたい人や訪ねたい場所の有無を会話の中で聞き、会えるよう、行ける様、調べたり、努力する。 電話をいただいたり、会いに来ていただく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ほとんどの方がいつもリビングで過ごされるので、仲良く、楽しく過ごせるようスタッフが間に入り、明るいつもりの雰囲気作り、話題作りを行っている。 気のあった仲間同士過ごせる場所作りをしている。(お茶のおもてなし) お茶の時間や食事など職員も一緒に入り、会話がなくなるよう努力している。 トラブルとならない様十分注意し、職員が潤滑油となる。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ご家族がボランティアで来てくれていた。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日ごろの会話の中から思いを汲み取り、共感している。 出来るだけ本人の意向に沿えるよう努力している。 アセスメントや日々の暮らしの中から、本人だったらと相手の立場に立って考え、話し合うようにしている。 ご本人とご家族と、どのように暮らしたいのか話し合うようにしている。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	認知症ケアに対して、その人の暮らし、生活歴、個性、価値観などを把握することが重要であることを理解していただき、情報をたくさん収集している。 本人との会話を大切に、入居後も、折に触れて昔のことや嗜好等情報収集に努めている。 新しい情報は気づきノートに記入し、職員全員が情報を共有している。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活アセスメント表や日誌、申し送りなどを通し職員全員が生活のリズムを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族や本人からの小さな情報や希望を聞き逃さず、大切に、カンファレンスシートを利用することで全員の意見を聞くことが出来、カンファレンスでの意見も取り入れて、ケアプランを作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の記録にケアプラン実行欄があり、成果がわかりやすい。 日々の生活やカンファレンス等で状態や状況に変化が見られたときなどは、随時見直しを行っている。 ご家族とも話し合いを行い、意見を出していただく。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活アセスメントシートや健康アセスメントシート、日誌等で情報を共有している。又、朝晩の申し送りや連絡、伝達が密に行われている。 カンファレンスの時にモニタリングを行い、一人ひとりの気になることなどを話し合い、ケアプランの見直しや実践を行っている。 ケアカンファレンスシートを利用し、実践している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	透析(週3回)やすこやか検診など、対応している。 ご家族が対応できない部分の通院介助を行っている。 会社内で、困った時に助け合いやすい環境にある。 1Fのデイサービスへの訪問で子供達の発表などを一緒に見学させていただく。 すこやか祭りでの事業所全体の利用者様、スタッフとの交流がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人と地域との接点を見出し、小学校行事に参加や、ボランティアの協力(ギター演奏、読み聞かせ、畑のボランティア)また、小学校や中学校の総合的な学習(職場体験)の受け入れ、サンシャイン学園の実習生の受け入れを行っている。 運営推進会議の構成員に民生委員がなっていて、毎回出席して下さる。 消防署の救命救急講習を受ける。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	社協を通して、通院の支援や電動ベットの譲受などを行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センター、町内会役員、民生委員等の出席を得て、運営者も参加して、周辺情報や情報交換、協力関係を築いている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>在宅より継続して主治医に来てもらったり、利用前からのかかりつけ医で医療が受けられるよう通院介助を行っている。 歯科の訪問診療も受けている。 日常の健康管理は看護職員が行っていて、主治医との連携が出来ている。 ご家族が対応している受診のほか、不可能なときには職員が代行している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症について、医師は知識を持っている。(講師をしてくださる) 又、提携医療に脳神経がある。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員を配置していて、週2回健康管理や状態変化時には相談を行え、心配な時はいつでも駆けつけてくれる。 カンファレンスでも意見交換が出来ている。 又、主治医と、看護師と、グループホームとの連携が出来ている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には、アセスメントをお渡しし、病院関係者との情報交換や相談に勤めている。 退院時には病院にいき、情報交換を行う。 管理者、職員とも面会に行き、退院の意欲を高めてもらうよう努めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合における対応にかかる指針と、重度化した場合における対応についての同意書を交わしている。 又、重度化に伴う意思確認書をいただいている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>今のところはターミナルの状況というものはないが、今後に向けてターミナルケアの勉強会を開いたり、研修に出席するようにしている。 医師とも終末期に向け対応していくなどの話をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	アセスメントやケアプランなどの支援状況や情報交換を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人情報保護法の勉強会を行い、実践している。 プライドを損なわないような声掛けに注意している。 職場やそれ以外でも個人情報の扱いに十分注意するよう促している。 職員や実習生とは「機密および個人情報の守秘に関する誓約書」を取り交わしている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	一人ひとりと信頼関係を築き、なじみの関係となり、両者が主体となり決定できる場面を作っている(食べたいもの、行きたい場所など) 希望を言ったり、自己決定しやすいよう支援している。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な流れはあるが、決まったスケジュールは無い。 一人一人に合わせた個別なケアを行っている。 話の流れから、ドライブに出掛けたり、喫茶店や外食に1対1で出掛けたりしている。 買い物や犬の散歩、銭湯など希望に添えるよう努力している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	お化粧品や髪油など、長年愛用されているものがなくならないよう一緒に買い物に行く。 理美容もご希望を聞いている。 おしゃれや身だしなみについても、その方の希望や嗜好に合わせている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る事はお願いし、調理、盛り付け、片付けなどを一緒に行っている。 裏の畑の野菜を一緒に取ってきて使っている。 同じテーブルで、世間話をしながら楽しく食事が取れるよう努めている。 食べたいものを聞いたり、調理法を聞いたり、調理時のおい話を話題にしたり、楽しめるように工夫している。 手作りおやつを一緒に作ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の嗜好品を入居時に聞いている。 又、入居後も、情報収集に努めている。 飲み物もいるんな種類を用意し、ご本人に決めていただく。 おやつを一緒に買いに行く。 食べたいもののリクエストに答えるようにしている。 『パンが食べたい』 買いに行く。など		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	人に気づかれぬような工夫や、ゆっくりと回りを気にしないで排泄出来る工夫をしている。(手作りのプレート) 排泄のパターンを観察しタイミングを見て誘導している。 薬に頼らないで、腹部マッサージや運動、腸内菌飲料などで対応している。 又、朝、一杯の水や牛乳等を飲用するなどの工夫をしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望を出来るだけ尊重し、気持ちよく入っていただけるような言葉掛けや雰囲気づくりをしている。時々銭湯へ行く。 菖蒲湯やレモン風呂など季節にちなんだものを取り入れている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間の安眠のための日中の運動や活動、外出、散歩などを促している。 休みたい時に休める環境作りをしている。 安眠に向けての暖かい飲み物やホットパック、環境を整えたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、出来る事を見つけ、おもしろい、気持ちよく行っていたり出来るよう支援し、感謝の言葉掛けをしている。 遠出の外出や外食、又、個々の楽しみごとを行っている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの希望や状態に応じ、お金を本人が使えるように支援している。 一緒に買い物に行き、本人が選び、買い物をしたり、お祭りで使ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や体調、気分、希望に応じて、日常的な散歩や買い物、季節を肌で感じられるような外出、ドライブ等行っている。 喫茶店や外食、コンサートやお祭りなどなど個々に合わせた外出等も行っている。 朝晩の犬の散歩を楽しみにしている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行きたいところを聞いたり話し合ったりして、可能な場合は計画を立て、シフトを調整し、ご家族に協力していただき、実行につなげている。 入居者様の提案で海を見に行ったり、小樽ドライブ、コンサート、墓参りなどを行っている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望で、ご家族に電話をし、お話をしている。 ご家族や知人からの電話は、ゆっくりお話ができるよう、お部屋でしていただく。 孫や職員からの年賀状が届いた。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	事前の連絡は必要なく、いつでも気軽に訪問していただけるよう、職員は心がけ対応している。 訪問時にゆっくりしていただけるような配慮を行っている。 ひとつの家族として、他入居者や職員、ご家族が会話できるような雰囲気作りを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修会に出席したり、カンファレンス時に話し合ったり、身体拘束のないケアを実践している。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は鍵をかけていません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、仕事をしながらさりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間も安全を第一に考え、常に利用者の様子を確認すると共に、少しの物音にも駆けつけ、すぐに対応している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況変化に応じ注意をしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態から予測される危険を検討して、事故を未然に防ぐ為の工夫をしている。(手摺りの増設、SOSネットワーク連絡表等) 事故報告や記録があり、事故防止策を検討している。ご家族への説明報告をしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故発生時の対処方法の勉強会をしている。夜間時の連絡体制や対応方法について想定している。年に1回の救命救急講習を受けている。AEDも常備しており、緊急時に備えている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行っている。(消火器の使い方実施) 又、定期的に、設備点検を行っている。運営推進会議にて、協力を呼びかけている。避難場所として、向かいのグループホームと協力体制をとっている。近隣に職員の住居があり、緊急時に早く駆けつけることができる。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時より、活動や外出等で起こりうるリスクについて話し、リスクはあるが、外出や活動で得られることの大切さを話している。看護師からも、医学的な面での説明を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの持病や薬、又、状態を把握し、変化や兆候を見落とさないようにしている。 食事、排泄、バイタル、顔色など、記録に残し、申し送りなどでスタッフ全員が情報を共有し、看護師や、医師につなげている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は病気と共に薬についても把握し、又、確認しやすいよう処方箋や個人ファイルに整理している。 又、レベルに応じ、きちんと服薬できるよう、見守り援助を行っている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日の排便状況を把握し、むやみに薬に頼らないよう、腹部マッサージや運動、食物繊維が多く取れる食事の工夫、水分摂取量、ビフィズス菌やオリゴ糖、冷たい飲み物などを利用している。カンファレンスで話し合いを重ねている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアの研修会に出席し、会議などで重要性を話し合っている。 食事前の口腔嚥下体操や氷水での刺激、食後の口腔ケアなど、個別に入れ歯の管理や手入れを行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取状況を記録し、把握している。 利用者の好みや好き嫌い、病状などを把握している。 栄養バランスの取れたメニュー作りを心がけている。 水分を取っていただけるよう、沢山の種類の飲み物を用意している。 一人一人に合わせた形状で用意している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてマニュアルを作成し、全職員で学習し、予防、対策に努めている。 玄関からすぐ、うがい手洗いや、手すりやドアノブの消毒、タオルの交換などを行っている。 利用者の家族に同意を戴き、職員ともインフルエンザ予防接種を受けている。 職員やご家族の感染時における迅速な対応をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材の消費期限の管理 まな板、フキンは、毎食後消毒している。 調理者の手洗いの励行や迅速な調理に心がけている。 冷蔵庫や食材の残りなど確認し処分する。 新鮮で安全な食材を使用するため、産地や購入店など気をつけている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>入り口に手作りの案内板を掲示し、ベンチやプランターなどを置いている。 花を育て、あったかな雰囲気作りをしている。 玄関も職員手作りのアレンジをし、季節ごとに替えている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節を感じられる行事や食べ物、飾りつけを取り入れている。 まゆだま、お雛様、かぶと、七夕、お月見、餅つき、おはぎ作りなど ブラインドの調整や証明の調整をこまめに行っている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>窓辺に椅子を置いたり、廊下の隅に椅子を置いたり、にぎやかな場所と静かな場所の工夫をしている。 食卓はテーブルを離し、2、3人で過ごせる工夫をしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時に、使い慣れた家具や布団など、なじみのもの、使い慣れたものをもって来てもらうようにしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>温度や湿度に気をつけ、ストーブの調整や窓の換気など気をつけている。(空気清浄機や加湿器なども利用) 温度計による室温管理を行っている。 トイレは換気扇と消臭剤を利用している。 アロマの利用</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>本人の活動性を維持するため、個人の状態に合わせ、杖や歩行器、車椅子など取り入れている。 手すりや居住環境等安全性に配慮している。(手すりの増設) 居室内での安全に考慮した家具の移動や滑り止めなど。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>出来ることできないことの見極めを行い、いつでも見守りし、解らない時は手助けし、一人ひとりが自信をもち、生活できるよう、その力を生かせる環境作りを行っている。 混乱の原因を探ったり、改善に向けての話し合いを行っている。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>各所にご家族が作った椅子を置き、座れるようにしている。 玄関前や裏にテーブルや椅子を置き、お茶の時間や食事、夕涼みなどを楽しむ。 ホームの周りに花を植えたり畑を作ったり、作物が大きくなるのを楽しんだり、収穫を楽しんだりしている。 世話を入居者様がしてくれている。</p>		

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

入居者様一人ひとりの思いを受け止め共感し、大切な一日一日を笑顔で過ごしていただけるよう、スタッフ全員が努力を重ねています。個別ケアを重視し、それぞれのレベルにあった楽しみごとを見つけ、実践しています。職員もそれぞれの得意分野を活かし、日々入居者様が楽しめるよう考えてケアしています。運営者も協力的で、職員からの要望にこたえるよう努力してくれ、相談事や、メンタル面でも対応してくれます。研修も積極的に参加させてもらえ、スキルアップが出来ます。管理者が人員+1名なので、外出などの行事の時に行動を起こしやすい。デイサービスの車を使うことが出来るので、来るまでの外出も容易である。職員も運営者も入居者様のことを第一に考え、協力的で信頼できます。グループホームの中でデイサービスを行っているが、その利用者様を含め、家庭的な雰囲気と暖かな人間関係が自慢である。